

おおつか 大塚あかね 議員 (民主党)



- ◇認知症予防と支援について
- ◇フィルムコミッション事業の推進
- ◇ESD（持続発展教育）の促進

認知症予防と支援について

平成19年から市は「認知症予防プログラム」を開始。今年度も実施されているが、5年経過したいま、さまざまな課題もあると考え、伺う。

質問 認知症予防プログラムの意義を地域へどのように広めていくのか。

市長 プログラム終了後、自主化したグループの交流会、活動発表会開催を支援することで、図っていききたい。

質問 身体に不安があり、プログラムに参加意欲はあるが、参加できない方の支援をどのように考えるか。

市長 会場を分散することや、訪問形式により実施するなど、研究していく。

質問 ドリル等を用いた「訓練型」プログラムを実施してはどうか。

市長 検討していく。

フィルムコミッション（FC）事業のさらなる推進について

質問 7月から始まったテレビドラマのロケによる経済効果、市の知名度向上などPR効果について伺う。

市長 経済効果として、ロケ隊の弁当



▲認知症予防プログラムでパソコンに挑戦

見物者によるタクシー利用、周辺飲食店での食事等が見込まれる。PR効果については見物者が放映ごとに増え、撮影日以外にも撮影場所を確認している方も多く見受けられ、効果は大きい。

質問 東京ロケーションボックス、多摩地域FC連絡会との連携について。

市長 今回の撮影を機にテレビ局等

から撮影場所の照会および依頼が増えているので、両組織を活用し、事業充実に努めていきたい。

質問 今後、どのように事業を推進していくのか。

市長 積極的に推進していきたい。

ESDの促進について

質問 羽村学、人間学はESDの理念に合致しているながら、認知されていない

いのではないか。

教育長 ESDの視点で捉えられるよう学校を支援していく。

\*ESD：一人ひとりが世界の人々や将来世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現を目指す、よりよい社会づくりに参画するための教育

いしい ひさお 石居尚郎 議員 (公明党)



- ◇奨学金のステップアップを
- ◇人に優しい道路行政を

奨学金のステップアップを

質問 奨学金制度の拡充を、高等学校・大学進学時等でどのような理念のもとで実施するのか。

教育長 高等学校や大学等の入学時に、その資金の一部を融資し、保護者の経済的負担を軽減し、教育の機会均等を図っていききたい。

質問 新しい制度として実施する内容は何のようなものか。

教育長 今次定例会に「羽村市入学資金融資条例」を提案。高等学校、大学等を範囲とし、融資対象は、入学金お

よび入学の支度に要する資金。融資限度額は120万円。融資要件は、所得制限を総所得750万円以下、市内に引き続き一年以上居住、市税等を完納していることなどである。

質問 通信制サポート校等も対象とする考えはあるのか。

教育長 通信制サポート校についても、対象としていく方向である。

人に優しい道路行政を

質問 公共用地等にベンチの設置を。

市長 道路以外の公共用地や民有地など、設置可能な場所を選定し、ベン

市内小中学校に在籍しているアレルギー疾患児童生徒への取り組みについて

質問 食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息の人数と有病率は。

教育長 「学校生活管理指導表」を提出している児童は食物16人0・49%。アトピー14人0・43%。気管支喘息10人0・3%。中学では「学校生活管理指導表」の提出者はいない。

質問 アレルギー疾患児童・生徒に対する取り組みと、アナフィラキシーのように緊急の対応を要する場合の学校側の対応は。

教育長 主治医の指示のもと、保護者との十分な協議等により「取り組みプラン」を作成。エビペン携行の場合、緊急時の対応にも備えている。

質問 食物アレルギー代替給食に対する市としての考えは。

教育長 「食物アレルギー対応内部検討会議」にて、最良策を検討している。

学校給食費の未納問題について

質問 給食費の未納件数、未払総額は。

質問 就学援助制度利用者数は。

教育長 児童生徒合計4千905人が在籍し、支給している人数は、907人である。

質問 「学校給食申込み制度」により、施行以前と比較し改善されているか。

教育長 平成19年度末と平成22年度末の比較で、未納世帯が31世帯減、未納

チの設置を進める。駅前広場についても、通行の安全が確保でき、利用が図られる場所について設置を検討する。

質問 市道と私道のT字路等における安全対策について。

市長 カーブミラー等の設置は、利用者負担を原則としている。

質問 避難路としての道路政策は。

市長 避難路として具体的路線は指定していない。防犯マップに急傾斜地等を記載し、周知を図る。

質問 市内の橋の安全性の確保を。

市長 堂橋・羽村橋の耐震診断を行い、必要に応じて安全対策を講じる。

質問 道路の維持管理計画の作成を。

市長 計画的な維持管理に努める。

とみなが のりまさ 富永訓正 議員 (公明党)



- ◇アレルギー児童生徒への取り組み
- ◇学校給食費の未納問題について



▲学校給食センター

教育長 平成22年度給食組合決算で97世帯114人。未納総額は161万7千560円である。

質問 未納金回収や、未納金をなくするための市や学校の具体的取り組みは。

教育長 「訪問徴収の事務処理マニュアル」を定め、工夫し、学校と教育委員会が一体となった取り組みを行っている。

者が40人減、未納総額が131万3千950円減と、それぞれ減少し改善されている。

質問 給食の質について、未納増での市の対応と、質に対する市の考えは。

教育長 未納の増加は質の低下要因となる。未納の解消と、おいしく安全な給食の提供に努めていく。



▲玉川上水にかかる堂橋

**自主防災組織の充実・強化について**  
**質問** 自主防災組織の実態をどのように把握しているか。  
**市長** 市内39の町内会・自治会にこの組織が設置されている。それぞれ日頃の防災資器材の整備や点検のほか、要援護者名簿を独自に作成し活用している地域もある反面、十分に活動ができていない組織もあり、地区により活動状況に大きな差が見受けられる。

**質問** それをどう分析しているか。  
**市長** 町内会への加入率や会員構成

はしもと ひろたか  
**橋本 弘山** 議員  
 (新政会市民クラブ)



◇自主防災組織の充実・強化  
 ◇児童・生徒の万引き防止対策

などで自主的活動の差があるように、防災の活動内容にも温度差があるものと考え。そこで、行政としてもできる限りの支援を展開していきたい。  
**質問** 自主防災組織の充実・強化に向けての取り組みは。  
**市長** それぞれの組織の能力の強化と平準化を図っていく。相互の情報交換や交流の場を設けるとともに、消防署や関係機関の協力の橋渡しなど、組織の能力強化の支援に取り組んでいく。



▲今年の防災訓練での様子

にしかわ みさほ  
**西川 美佐保** 議員  
 (公明党)



◇健康人口を増やす予防対策を  
 ◇省エネと循環型社会の実現を  
 ◇経済情勢が厳しい中での就労支援

**健康人口を増やす予防対策を**  
**質問** 昨年6月議会で提案した生活習慣病予防のための、保健センターの「栄養相談」とスポーツセンターの「運動指導」を連携させた事業の今後の予定は。  
**市長** 今後は、連携させた講座の充実を図るほか、保健センター、スポーツセンター、生涯学習センターが連携し、

大学等の協力も得て、事業を展開していきたい。  
**質問** 高齢者の肺炎球菌ワクチンの助成についての考えと他市の状況は。  
**市長** 医師会とも十分に協議を行ったうえで、実施に向けて検討していきたい。他市の状況は、公費助成している団体が17市となっている。  
**質問** 「胃がん検診」に発がん因子と認定されているピロリ菌の「抗体検査」を実施してはどうか。  
**市長** 現時点では、抗体検査を胃がん検診に含めることは考えていない。  
**質問** 救急医療情報キットの配布を障がい者や高齢者の希望者（一部有償でも）に拡大してはどうか。  
**市長** このキットは一定の見守りが必要な虚弱高齢者を対象として、希望者に配布している。今後、障害者や高齢者の希望者の拡大について検討する。



▲各種がん検診を勧めるパンフレット

**省エネと循環型社会の実現を**  
**質問** 燃えるごみを減らす取り組みは、今後どう考えているのか。  
**市長** 燃やせるごみの約6割が生ご

みであるといわれ、生ごみ処理機利用の促進のための助成金制度を第五次長期総合計画に盛り込み、検討することとしている。  
**質問** 入れ歯リサイクル事業を行ってはどうか。  
**市長** 社会福祉協議会などと、設置に向けて協議していく。

**質問** 省エネ対策推進のための民間企業との連携について市の考えは。  
**市長** 太陽光パネルとLED電球を組み合わせ、協賛事業者広告入りの誘導標識灯など、現在調査している。○その他「就労支援」について質問しました。

「町内会に加入してさらに良い地域にしていこう」という意識の高揚が大切である。  
**質問** 今後の町内会のあり方についてどのように考えているのか。  
**市長** 今後は防災・防犯・高齢者福祉をはじめ、増大・多様化する地域課題

に町内会・自治会と行政が共に「力を出し合う」、新たな協働関係を築くことが必要であると考えている。

とみまつ たかし  
**富松 崇** 議員  
 (新政会市民クラブ)



◇町内会への加入状況について

**町内会への加入状況について**  
**質問** 近年の町内会・自治会加入率の推移はどのようになっているのか。  
**市長** 町内会・自治会の加入率の推移については、平成13年4月1日では56・8%だった加入率が、平成23年4月1日現在では44・5%となっている。  
**質問** 今後の町内会加入率はどのように推移していくと考えているのか。  
**市長** 加入率については、今後も減少傾向で推移していくのではないかと予測している。



▲町内会・自治会対抗むかひ競争（今年の市民体育祭での様子）

世帯の総数が増えているにもかかわらず、加入世帯数は変わらないというのが現状であり、加入率が相対的に減少していく原因は、新規転入世帯等の加入が少ないことであると分析している。  
**質問** 町内会加入率を上げるために、現在、どのような取り組みを行っているのか。  
**市長** 市は、転入手続の際に加入促進のチラシ配布や広報はむらを通じてのPRを行っており、町内会連合会や

各町内会・自治会でもさまざまな加入促進対策を行っている。  
**質問** 町内会へ加入した場合のメリットを、市はどのように考えているのか。  
**市長** 「災害時など、困ったときに助け合える」「子どもや虚弱の方を見守る」「さまざまな連携を図ることができる」などのメリットが考えられるが、